

SaaS から AaaS へ、AI ソフトウェア基盤市場は約 300 億ドル規模【A.T. カーニー】

AI ソフトウェア基盤市場は約 300 億ドル、年 40%超成長へ。SaaS から AaaS への移行を支える新興スタックと、8 つの投資仮説を提示

A.T. カーニー株式会社（東京都港区、日本代表：針ヶ谷 武文）は、論考『立ち上がりつつあるエージェンティック AI ソフトウェア基盤市場』（英題：The emerging agentic AI software infrastructure market）を公開しました。

本論考は、エージェンティック AI が、アプリケーション中心の SaaS からエージェント中心の AaaS（Agent-as-a-Service）への移行を促し、その背後で新たなソフトウェア基盤市場を形成しつつあると指摘しています。AI ソフトウェア基盤市場は現在およそ 300 億ドルで、今後数年で 40%超の年平均成長率が見込まれます。一方、エージェンティック AI 基盤市場はなお初期段階で、成熟した決定的プラットフォームはまだ存在しません。

AI ソフトウェア基盤市場は約 300 億ドル、年 40%超成長へ

市場観点では、より広いエージェンティック AI 分野は急成長が予測されています。複数の業界予測は、世界のエージェンティック AI 市場が、現在の一桁台後半の十億ドル規模から、2030 年代初頭には数十億ドル台後半、あるいは数千億ドル規模へ拡大すると見えています。ただし、これは含まれる機能範囲によって大きく変わる見通しです。

この成長は、より広い AI 基盤拡大に支えられています。本論考によれば、AI ソフトウェア基盤市場は現在およそ 300 億ドルであり、今後数年で 40%超の年平均成長率で成長する見込みです。SaaS 普及にクラウド基盤が不可欠だったように、AaaS への移行でも実行、記憶、統制、商業管理を含む基盤能力が重要になります。

図表1 AIソフトウェア基盤市場は約300億ドル、年40%超成長へ

エージェント型AI市場は機能範囲次第で2030年代初頭に大きく拡大するとの複数予測



市場形成の読み筋



出所：Kearney論考「立ち上がりつつあるエージェント型AIソフトウェア基盤市場」

市場予測は複数業界予測に基づく本文記載。機能範囲により変動

AaaSを支える基盤は7つの機能層へ分解、成熟プラットフォームは未形成

本論考は、エージェント型AI基盤の新興全体像を複数の機能層に分解しています。具体的には、エージェント型基盤、MCP実行基盤とサーバー、エージェント型文脈保存基盤、エージェント型市場機能、運用・ガバナンス・セキュリティ管理ツール、財務・商業管理層、開発・テスト・ツールです。

今日のクラウド・データベースやコンテナ・オーケストレーション層に相当する、決定的で成熟したプラットフォームはまだ存在しません。現時点では実行基盤とオーケストレーションが同一ベンダーや同一プラットフォーム内で束ねられることが多いものの、市場の成熟に伴い、実行基盤は標準化・汎用品化へ、オーケストレーション層はセキュリティ、可視性、ガバナンス、相互運用性、コスト統制で競う制御点へ分化すると見られます。

図表2 AaaSを支える基盤は7つの機能層へ分解できる

エージェント中心の運用には、実行、記憶、統制、商業管理まで含む多層スタックが必要



出所：Kearney論考「立ち上がりつつあるエージェント型AIソフトウェア基盤市場」

本文の機能層整理。成熟した決定的プラットフォームはまだ存在しない

投資家向けに 8 つの仮説、オーケストレーションと商業管理が制御点に

本論考は、プライベートエクイティ投資家がエージェント型 AI ソフトウェア基盤における資本配分を検討するための 8 つの投資仮説を示しています。なかでも、オーケストレーションは、セキュリティ、ガバナンス、可観測性、実行、通信、経済性が交差する制御点として位置づけられています。

また、財務・商業管理は、重要でありながら最も未成熟な層の一つとされています。従来の CPQ、請求、FinOps システムは、自律行動、成果連動価格、GPU や推論価格の変動に駆動される動的なコスト構造を前提に設計されていません。エンタープライズ技術支出の 30% 超がクラウド・サービスに配分され、ワークロードの推計 50~60% がクラウド基盤上で動く現在、エージェント型 AI 基盤も同様に、速度、柔軟性、運用簡便性を重視したサービス化へ向かう可能性があります。

一方で、投資家が慎重に接すべき領域もあります。純粋な開発者向けツールの個別解、モデル依存型の賭け、単一クラウドに固定された解決策は、拡張性、基盤リスク、汎用品化リスク、可搬性需要の観点で課題を抱える可能性があります。

図表3 投資家向けに8つの制御点を提示

エージェント型 AI 基盤では、オーケストレーション、商業管理、統制、MCP が投資論点に



投資上の注意
モデル依存型・単一クラウド固定・純粋開発者ツールの個別解には慎重が必要

出所：Kearney論考「立ち上がりつつあるエージェント型 AI ソフトウェア基盤市場」

8項目は本文の投資仮説であり、確定的な投資助言ではない

論考について

論考名：『立ち上がりつつあるエージェント型 AI ソフトウェア基盤市場』（英題：The emerging agentic AI software infrastructure market）

URL：<https://www.jp.kearney.com/issue-papers-perspectives/the-emerging-agentic-ai-software-infrastructure-market>

監修者

滝 健太郎 シニアパートナー

東京大学経済学部経済学科を卒業後、A.T. カーニーに入社。約 10 年のコンサルティング経験を有する。通信・金融機関・消費財を中心に、戦略～新規事業・R&D～M&A～マーケティング～営業～オペレーション～コスト～人事・組織など、経営に係わる幅広いテーマを手掛け、特に、全社レベルでの大規模デジタルトランスフォーメーションを得意とする。

川崎 健史 パートナー

東京大学理学部卒、Duke University, Fuqua School of Business (MBA) 修了。NTT 東日本、米系戦略コンサルティングファーム、Big4 コンサルティング部門等を経て、A.T. カーニーに入社。日系及び東南アジアの通信・ハイテク企業を中心に、中期経営計画・グローバル経営マネジメント・テクノロジー戦略・事業モデル変革・業務パフォーマンス変革等の幅広い CXO アジェンダに従事。近年では、戦略コンセプトの立案から実行サポートまで一貫したデジタルトランスフォーメーションのサポートも数多く手掛ける。

A.T. カーニーについて

A.T. カーニー（グローバル・ブランド名：Kearney）は、100 年にわたり世界有数の経営コンサルティングファームとして、Fortune Global 500 企業の 4 分の 3 以上をはじめ、世界各国の政府機関に信頼されるパートナーであり続けてきました。世界 40 カ国以上に拠点を展開し、私たちの最大の強みは「人」にあります。インパクト・ファーストを掲げ、独創的な発想と実行力をもって、顧客企業が直面する最も困難な課題に挑み、変革の実現をともに推進します。日本には 1972 年に進出し、主要産業のリーディングカンパニーに、戦略策定から変革の実行まで一貫した支援を提供しています。

<https://www.jp.kearney.com/>

本件に関するお問い合わせ

部署名：A.T. カーニー株式会社 広報

メール：Japan.PR@kearney.com